

聖書：アモス書5章21～27節

説教：公義を水のように流れさせよ

1 神

1) イスラエルの礼拝を受け入れない

アモスは紀元前約790年から750年頃の人で、もともとは農業を営んでいたのですが、あるとき神に召しを受け預言者として働くようになったと言われています。

当時イスラエルは北王国イスラエルと南王国ユダに分裂していましたが、その頃は争いごともなく比較的平和な時代だったようです。そのおかげで経済的にもかなり栄えました。ところが信仰の面では大きな問題を抱えており、大きな罪が繰り返されていました。そこでアモスが遣わされ、もし罪を悔い改めなければ神はイスラエルをさばく、と語りました。

今日開いている21節に、「わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける」とあります。「わたし」とは神のことです。人々は経済的には恵まれていましたから、礼拝ではたくさんのいけにえがささげられました。集会のプログラムもよく準備され、その中で歌われる賛美も感動的なものでした。参加した人々は心から満足し、喜んでいました。

ところが、神はこれをどのように見えていたのか。憎む、退ける、かぎたくない、喜ばない、目もくれない、歌の騒ぎを遠ざけよ、琴の音を聞きたくない。七つのことばを使うほど徹底的に、神は人々のささげ物を拒んでいます。

これは大変なことです。もしかして、私たちが行う礼拝も受け入れられていない可能性が出て来るからです。そうならないよう、

神がどうして受け入れなかったのか、理由を押さえておかなければなりません。24節にあります。「公義を水のように、正義をいつも水の流れる川のように、流れさせよ。」別の言い方をすれば、「あなたがたがすばらしいささげ物をささげ、すばらしい礼拝をしていると思っているかもしれないが、ほかの所では何をしているのか。公義と正義をねじ曲げ、踏みにじり、まるでよどんだ川のように、腐ったにおいまでしてきているではないか。口では神を信じますと言いながら、一歩外に出たら、神に逆らうようなことをしている。」そう言っているのです。

2) 公義と正義

礼拝をりっぱに行うことよりも、まず公義と正義を守ることがもっと大切だ。その趣旨はわかります。では、公義と正義とは何か。難しい言葉ですので説明が必要です。いろいろ理屈を述べるよりも、エレミヤ書22章3節に具体的なことが書いていますので、それを見た方が理解しやすいでしょう。「主はこう仰せられる。公義と正義を行い、かすめられている者を、しいたげる者の手から救い出せ。在留異国人、みなしご、やもめを苦しめたり、いじめたりしてはならない。また罪のない者の血をこの所に流してはならない。」

アモスの時代、金と引き換えに正しい者が売られ、貧しい者から絞り取るようなことが平気で行われ、それを見ても悲しむ者もおらず、公義と正義がどこにもない状態でした。

それで神は言われるのです。「公義を水のよ
うに、正義をいつも水の流れる川のように、
流れさせよ。」

あなたがたは、どんな礼拝をささげるかと
か、どのようにしてりっぱな集会を開こうか
とか、そんなことばかり一生懸命考えている
ようだが、最も肝心なことを忘れていた。公
義と正義はいったいどこに行ったのか。神は
問いかけられました。

3) いつも川が流れるように

公義と正義を行うことが川の流れるに例え
られております。日本で川というと、季節に
よって水の量は変わることはありますが、と
にかく一年中とうとうと流れている。そうい
う川を思い浮かべます。しかしイスラエルで
は、一年中水が流れている川もあるのですが、
そうではない川も沢山あります。雨の降らな
い季節は何もないただの岩石や砂の荒野。と
ころが雨の季節になるとそれが一変して、突
然水が流れてきて川になる。そんな川も多い
のだそうです。

公義と正義を行うこともこれと同じで、水
が流れたり乾いたり、そんな気まぐれなもの
ではなく、いつも流れている川のように、常
に行っていないさい、と言うのです。

2 私たち

1) 公義と正義を守れるのか

さて、アモスを通して神の警告を受けたイ
スラエルはどうなったか。残念ながら彼らは
聞く耳を持たず、結局のところ外国の軍隊に
攻められて国は滅んでいきます。そんな結果
になったイスラエルを見て、私たちはこの
24 節のことをきちんと守らなければならな
いという教訓を学ぶこととなります。

と、簡単に言いますが、では実際に 24 節
のみことばを守ることができるのか。少しは
できるかも知れません。心に余裕があるとき
は喜んでするかも知れません。でも神が求め
ているのは、「いつも」です。あるとき水が
流れたかと思えば、次の日にはまったく乾き
きって何も流れない。そんな気まぐれの川で
はない。いつもです。だいたい、皆さんは自
分のことを信用できますか。絶対守りますと
誓いながら、何度も誓いを破ってきたのでは
ないですか。そんな私たちですから、「いつ
もできます」などとはとても言えません。と
いうことは、やっぱり私たちもイスラエルの
ように厳しいさばきを受けてしまうのか。そ
れではただ苦しいだけです。

2) 荷を軽くするために

神は、私たちが苦しめるためにこんなこと
を語るのでしょうか。いいえ、私たちに救う
ために語っているはずですよ。であるなら、24
節のみことばは、私たちには重荷を背負わせ
るためではなく、むしろ私たちの重荷を軽く
するために語られたみことばと考えるべき
でしょう。どうして軽くなると言えるか。そ
もそも、どうして神が公義と正義を守れと語
らなければならなかったのか、その理由を知
れば納得するでしょう。

先ほど、エレミヤ書のみことばを見ました。
公義と正義を行うことは具体的にどんなこ
となのかが、示されていました。そこには、
かすめられている者、在留異国人、みなしご、
やもめが取り上げられています。言い換えら
ば、弱い者、貧しい者、悲しむ者、痛む者、
大切なものを失った者、そんな人たちです。
この人たち、誰のことでしょう。自分以外の
人ですか。私は困っていないけれど、世の中

には困っている人がいるので助けましょう。私の周りにいる弱い人たちが対象である。もちろん、そういう面もあるでしょう。

では、自分はそこに入らないのですか。表から見たら、それほど困っている訳ではない。しいたげられている訳ではない。なのでこのリストにはカウントされない。そう思うかもしれない。でも、見えないところを見たらどうなのでしょう。心の中に何を抱えていますか。例えば、愛する家族を失ったという悲しみがあるのではないか。もしそうであるなら、あなたは「かすめられている者」であると神は言われるのです。あるいは、何をしてもむなししいと感じている人もいます。飢え渴きを感じている人がいます。この世には自分の居場所がない。そんなふうを感じている人がいます。もしそうなら、あなたははりっぱな在留異国人であると、神は言われるのです。

誰かを助けようとする前に、救われなければならないのは私たちの方だったのです。そうすると、神が口を酸っぱくして公義と正義を守ることにこだわるのはなぜか。理由がわかります。私たちを救いたいとの熱心から出たみことばだったのです。

3 十字架

1) 公義と正義が実現したところ

私たちには24節を成し遂げることはできません。では、いったい誰がこの24節のみことばを実現したのか。イエス・キリストです。この方が、成し遂げました。「悲しむ者は幸いです。その人は慰められるから」と言われたイエスは、十字架で私たちを慰める者となって下さいました。そのようにして、アモスを通して語られたことばが実現しました。主が公義と正義を実現して下さったおかげで、かつては罪ある私たちでしたが、今は罪のない者とされました。

2) もし罪のない者の血が流されるのなら
その罪のない者のことについて、先ほどのエレミヤ書にはこうありました。「また罪のない者の血をこの所に流してはならない。」罪のない者とされた者は、殺されてはなりません。さばかれてはなりません。不当な扱いを受けてはなりません。これはすばらしい約束です。この約束があるために、主が再び来られる日に、私たちはさばかれることなく天の御国に迎えられるからです。これが将来実現していく約束です。

それはよいとして、24節には「いつも」ということばがあります。将来は実現される、ではいま現在はどうなのか。「いつも」ですから当然、今現在のことでもあるはずです。例えば、今世の中には、貧しい人たちがしいたげられている現実をなんとか良くしようと働いている人たちがおります。そのような人たちは、24節に従っていることになりま

す。こう言いますと、私はそんなことはとてもできないという人が出てきます。安心して下さい。何もできないかもしれませんが、公義がねじ曲げられている現実を見て、心を痛めることがあるはず。それでよいのです。心にそのように感じるだけで、もうすでに24節のみことばは実現しているのです。

新しい年度の道標聖句として、24節のみことばを掲げたいと願っています。私たちはここにある命令を完全に成し遂げることはできません。それでも、もし目の前に罪のない者が殺されるとまでは行かなくても、不当な扱いを受けているということを目

にしたら、黙っていていいのでしょうか。見て見ぬ振りをしていいのでしょうか。「そんなことを問題にすべきではない。事を荒立ててはいけない。」そんな声がどこからともなく聞こえて来ることがあります。

私たちはいったい誰を主と信じているのでしょうか。もちろんイエス・キリストです。その主はなんと言われましたか。「公義を水のように、正義をいつも水の流れる川のように、流れさせよ。」言っただけではない。このみことばを成し遂げるために、罪ある者となられて血を流され、いのちをお捨てになりました。そのようにして、私たちのいのちを買い戻して下さったのです。人の声ではなく、神のみことばに従いたいと思います。